

令和2年度第1回 川崎市上下水道事業経営審議委員会会議録

1 開催日時

令和2年11月19日（木）14:00～17:06

2 開催場所

川崎市川崎区宮本町1番地
川崎市役所第3庁舎18階大会議室

3 議題

- (1) 川崎市上下水道事業中期計画（2017～2021）の進捗管理について
- (2) 川崎市上下水道事業中期計画（2022～2025）の策定について
- (3) その他
 - (ア) 排水樋管周辺地域における浸水対策について
 - (イ) 上下水道の統合効果と執行体制等に関する検証について
 - (ウ) 川崎市水道100周年記念事業について

4 出席者

(1) 委員会委員（敬称略）

長岡裕（委員長）、齋藤利晃（副委員長）、磯貝和敏、鎌田素之、中野英夫、西川雅史、見山謙一郎、浦野敏行、高橋慶子、舘克則、中山晶子

(2) 上下水道局職員

上下水道事業管理者、総務部長、経営管理部長、経営管理部担当部長（財務）、サービス推進部長、水道部長、水管理センター所長、下水道部担当部長（下水道施設）、庶務課担当課長（危機管理）、経営企画課長、経営企画課担当課長（組織・定数）、財務課長、サービス推進課担当課長（広報・記念事業）、水道計画課長、下水道計画課長

5 傍聴者

なし

6 会議内容

以下のとおり

事務局 定刻になりましたので、ただ今より令和2年度第1回川崎市上下水道事業経営審議委員会を始めさせていただきます。私は、事務局を務めさせていただきます経営企画課長の舘と申します。どうぞよろしくお願いたします。

本日の会議ですが、「川崎市審議会等の会議の公開に関する条例」第3条の規定

に基づきまして、公開とさせていただきますので御了承願います。

また、会議終了後に議事録を作成いたします。こちらも原則公開となっておりますので、事務局で作成後、各委員に内容を確認していただいたのち、確定させてまいりたいと考えております。

本日の会議におきましては、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、事前にお伝えしておりますとおり、会議中は常にマスクを着用していただきますようお願いいたします。

お手数かと存じますが、御発言の際にはその都度、アルコール消毒済みのマイクをお渡しいたしますので、マイクをお使いいただきますようお願いいたします。

それでは、本日の資料を確認させていただきます。

(~資料確認~)

それでは、次第に沿って進めさせていただきます。

はじめに、金子上下水道事業管理者から御挨拶を申し上げます。

上下水道事業管理者

上下水道事業管理者の金子でございます。

委員の皆様におかれましては、本日は大変お忙しい中、また、このような社会状況の中、御出席いただきまして誠にありがとうございます。

この経営審議委員会につきましては、委員の任期が2年となっております、本日は、新しい任期になって初めての開催でございます。

今回、新たに委員をお引き受けいただきましたことに改めてお礼申し上げます。今後、上下水道局の事業全般について、御審議いただくこととなりますので、どうぞよろしくをお願いいたします。

さて、今般の新型コロナウイルスの感染拡大は、私達の生活や経済活動に様々な影響を与えております。

上下水道は、市民や事業者にとって、なくてはならない極めて重要な社会インフラであることから、24時間365日体制で業務を着実に遂行する必要があります。このため、4月から5月にかけての緊急事態宣言下では、ライフラインとしての機能維持を前提としながら、在宅勤務や時差勤務に取り組むなど、対応に苦慮したところではございますが、一方で、有事における業務執行体制について、考えを深める機会になったと感じております。

この新型コロナウイルス感染症による社会の変化や、台風などの豪雨による災害の激甚化をはじめ、上下水道事業を取り巻く環境は急速に変化しております。こうした変化を的確に捉え、川崎市上下水道ビジョンにおける基本理念である「健全な水循環により市民の生活を守る川崎の上下水道」の実現に向け、「上下水道事業中期計画」に基づく施策・取組を一層推進していかねばならないと感じております。

本日の議題といたしまして、現在の「上下水道事業中期計画」の進捗管理について、また、令和4年度からの次期「上下水道事業中期計画」の策定について、御説明させていただきます。

そのほか、本市の水道事業が来年に給水開始100周年を迎えることから、これを記念した様々なイベントを予定しておりますので、「川崎市水道100周年記念事業について」の報告など、3件の報告もさせていただきます。

内容的には、やや専門的、技術的なものもございますが、十分に御審議をいただきまして、率直な御意見を賜りたいと考えております。

開催にあたりまして、簡単ではございますが、私からの挨拶とさせていただきます。本日はどうぞよろしくお願い申し上げます。

事務局 続きまして、経営審議委員会委員を御紹介させていただきます。

経営審議委員会委員の任期は要綱により、2年となっております。本日は選任後の初めての会議でございます。皆様を御紹介させていただきたいと思っております。「川崎市上下水道事業経営審議委員会委員名簿」を御覧ください。

経営審議委員会の委員につきましては、要綱によりまして、学識経験者、各団体の代表者、公募の方に委嘱することになっておりまして、名簿につきましては、区分ごとに50音順に作成しております。名簿順に紹介させていただきますので、名前を呼ばれた方におかれましては、恐れ入りますがお立ちいただきまして、その場で目礼いただければと存じます。

まず学識経験者でございます。

公認会計士の「磯貝和敏（イソガイ カズトシ）様」でございます。

関東学院大学准教授の「鎌田素之（カマタ モトユキ）様」でございます。

日本大学教授の「齋藤利晃（サイトウ トシアキ）様」でございます。

東京都市大学教授の「長岡裕（ナガオカ ヒロシ）様」でございます。

専修大学教授の「中野英夫（ナカノ ヒデオ）様」でございます。

青山学院大学教授の「西川雅史（ニシカワ マサシ）様」でございます。

専修大学特任教授の「見山謙一郎（ミヤマ ケンイチロウ）様」でございます。

なお、東京都立大学特任教授の「小泉明（コイズミ アキラ）様」におかれましては、本当に長い間、この経営審議委員会の委員として、また、この10年間は委員長という立場で大変御尽力いただきましたけれども、市の要綱で委員の通算任期に上限の定めがありまして、今回、小泉様から御一報があり、前期の任期をもちまして、この経営審議委員会の委員としては退任されるということになりましたので、この場を借りて御報告させていただきます。

続きまして、各団体の代表でございます。

国際ソロプチミスト川崎レコーディングセクレタリーの「伊藤喜美子（イトウキミコ）様」でございます。伊藤様におかれましては、本日欠席でございます。

川崎商工会議所副会頭の「浦野敏行（ウラノ トシユキ）様」でございます。

川崎市全町内会連合会常任理事の「高橋慶子（タカハシ ケイコ）様」でございます。

川崎地域連合事務局長の「舘克則（タテ カツノリ）様」でございます。

川崎市生活協同組合運営協議会理事の「渡部さと子（ワタベ サトコ）様」におかれましても、本日欠席でございます。

続きまして、公募委員でございます。

「中山晶子（ナカヤマ アキコ）様」でございます。

「福井綾香（フクイ アヤカ）様」におかれましても、本日欠席でございます。

以上、14名の方でございます。

なお、委員の任期につきましては、令和2年10月1日から令和4年9月30日までとなっております。どうぞよろしくお願いいたします。

続きまして、本日出席しております上下水道局の職員を紹介させていただきます。座席の関係で、お手元の上下水道局側の出席者名簿の順番と多少前後いたしますが、御了承願います。

（役職名と氏名の紹介）

どうぞよろしくお願いいたします。

続きまして、次第4の委員長・副委員長の選任に移ります。

要綱によりまして、委員長は学識経験者の中から委員の互選により定めることとなっております。どなたか御推薦はございますか。

磯貝委員 長岡先生が適任と思われませんが、いかがでしょうか。

事務局 ありがとうございます。ただいま委員から長岡先生の御推薦がありましたが、長岡先生いかがでしょうか。

長岡委員 お受けしたいと思います。

事務局 ありがとうございます。それでは、経営審議委員会の委員長につきましては、長岡先生にお願いしたいと思います。

続きまして、同じく要綱によりまして、副委員長は委員長の推薦により定めることとなっております。長岡委員長、副委員長の御推薦をお願いいたします。

長岡委員長 齋藤先生にお願いしたいと思います。

事務局 ありがとうございます。齋藤先生、いかがでしょうか。

齋藤委員 お引き受けしたいと思います。

事務局 ありがとうございます。それでは、経営審議委員会の副委員長につきましては、齋藤先生にお願いしたいと思います。

委員長・副委員長が選任されましたので、お手数かと存じますが、お席の移動をお願いいたします。

それでは、ここで委員長から御挨拶をいただければと存じます。

長岡委員長よろしくをお願いいたします。

長岡委員長 委員長を務めることになりました長岡です。これから2年間どうかよろしくをお願いいたします。

私は、この経営審議委員会の委員として、長く務めさせていただいておりますけれども、川崎市の上下水道局については、色々な面で非常に良い点がたくさんあると思っております。

例えば、水道・工業用水道・下水道、この三事業が縦割りに陥ることなく、一体的に進められていることや、一人一人がスピーディに非常に活力のある活動をされていること、それから、新しい技術あるいは新しいやり方やシステムについても、躊躇なく取り入れるフットワークの良さなど、非常に良い面をたくさん感じていて、素晴らしい事業体だと思っております。

最近では、総合的、俯瞰的、多面的、多角的といった色々な用語がありますが、技術的な面や上下水道局の内部からでは分からない多面的な視点から、事業をチェックすることや意見を申し上げる場については、非常に大切だと思っております。また、市民のために事業が実施されていることは非常に理解しておりますが、市民にどう思われているかという点から、チェックするというのも大切だと思っております。

そういった意味で、この経営審議委員会の委員において、上下水道の専門家というのは、多分、私を含めて3人だと思いますが、それ以外にも非常に多面・多角的な専門の方がいらっしゃいますし、色々な組織の代表の方、あるいは市民の代表の方といった色々な方が、事業に対して意見を言うという場として、この委員会は非常に貴重で大切な場だと思っております。

ぜひ、委員の皆様におかれましては、そのような視点や色々な面から事業に対して意見を言っていただきたいと思っております。上下水道局の方におかれましては、多面的な意見を取り入れて、委員と一緒に上下水道事業を良くする場として捉えていただきたいと思っておりますし、私もそのように進行していきたいと思っております。ぜひ、この委員会がそのようになるように御協力いただければと思います。簡単ですが、挨拶とさせていただきます。

事務局 どうもありがとうございました。それでは、要綱によりまして、委員長が会議の議長となりますので、ここからの進行につきましては、長岡委員長、よろしくをお願いいたします。

長岡委員長 はい。それでは、本日の議題に入らせていただきます。

議題1「川崎市上下水道事業中期計画の進捗管理について」御説明をお願いします。

経営企画課長　それでは、議題1につきまして御説明させていただきます。資料1-1を御用意願います。

（資料1-1）「川崎市上下水道事業中期計画（2017～2021）の進捗管理について」説明

（資料1-2）「川崎市上下水道事業中期計画令和元年度実施結果について」説明

（資料1-3）「財政収支見通し」説明

（資料1-4）「川崎市上下水道事業中期計画施策中間評価結果について」説明

長岡委員長　ありがとうございました。それでは、質疑に移りますが、御質問や御意見、どんなことでも結構です。冒頭にも申し上げましたが、必ずしも専門的な意見ということではなくて、全体的な意見、多面的な意見をいただければと思っております。もちろん、専門的なことでも結構ではございますけれども、どうか積極的な御発言をお願いいたします。

西川委員　資料1-3について、二点お伺いしたいと思います。一点目は全ての事業に共通することですが、一番下の「差額」欄について、直感的に差額は計画段階ではゼロになるような気がするのに、なぜ、令和元年度の決算額と同額が後年度にも記載されているのでしょうか。数字の表としての見方が不明です。当初計画と実施計画との差額であれば、計画段階ではゼロになるのではないかと思いますので、教えていただければと思います。

二点目は「当年度発生分補てん財源等（C）」について、これは常にある程度、帳尻が合うように他会計からなのかは不明ですが、繰入れされる金額のように見えるのですが、これがある限り絶対に赤字にならないような構造になっているので、この「当年度発生分補てん財源等（C）」がどのように決まっているのかについて、教えていただきたいと思います。

経営企画課長　一点目の計画との差額の御質問についてですが、令和元年度の計画の欄は計画値のため、委員の御指摘のとおり、差額はゼロとなっております。決算の欄については、平成30年度決算の差額を含めて、令和元年度の計画値との差額を反映しており、当初計画よりも累積資金が貯まっているという結果になりますので、ここはゼロではありません。また、後年度につきましては、令和元年度の結果を反映していますので、それが横引きになっています。水道事業で御説明しますと、累積資金

残額が令和元年度決算で176億9千万、令和2年度計画の当年度資金収支がマイナス19億100万となっていますので、これらの合計が令和2年度の累積資金残額となっております。

西川委員 普通、差額は累積資金残額から当初計画値を差し引いて計算しますよね。当初計画はまだ計画段階なので、当然、帳尻が合うように計画を作れば良いだけなので、令和2年度はゼロになるべきなのに、なぜ、過年度の金額が並ぶのか、表として意味が分かりません。

長岡委員長 確かに私も不思議に思います。

経営企画課長 令和元年度までの累積資金残額には、これまでの決算が反映された金額が入っていますので、確かに令和2年度や3年度の計画値ではゼロですが、元年度までの実績を加味した累積資金残額を後年度に反映しているため、差額の欄には同じ金額が並んでいます。

財務担当部長 二点目の補てん財源に関する御質問について、お答えしたいと思います。
この補てん財源については、公営企業会計の特性でもありまして、主に当年度の損益勘定留保資金というのがございます。例えば、減価償却費については、費用として計上しているものの、実際は現金の支出はございません。緑の「収支差引(B)」にありますとおり、資本的収支では、資本的収入が資本的支出を下回ることが一般的ですが、ここに現金支出が伴わないものを充当して事業運営する方法が、川崎市だけではなく、他の事業体でも採っている会計手法でございます。また、これがあると必ず黒字になるのではないかと御指摘ですが、資本的支出を一定額に抑えている限りは補てんが可能ですが、投資を増加すると補てんしきれなくなって、当年度資金が不足するということが十分ございます。

西川委員 御説明ありがとうございます。この数字がどのように算出されているのか、この表からは読み取ることが出来ないため、それが健全なのかどうかを確認することが、この経営審議委員会の役目だと思っていますので、記載方法を改善していただきたいと思っています。

財務担当部長 御意見ありがとうございます。この補てん財源の算出については、非常に複雑でございますので、あえて混乱しないように記載していませんが、先生から御意見がありましたので、今後、分かりやすい資料の記載の仕方を検討したいと思います。

長岡委員長 委員が必ずしも財政の専門家ではないので、記載方法については配慮をお願いしたいと思います。ほかいかがでしょうか。

磯貝委員 先程の資料1-3の水道事業で、収益的収支で当初計画と令和元年度決算が大きく違っているのは、「その他」の計画額113億と決算額88億の差額の25億が原因だと思いますが、この理由を教えてください。

もう一つ、下水道事業の平成20年度の企業債残高が4,000億、約3%の利率で支払利息が128億程でしたが、令和元年度には企業債残高が3,000億、利率が約1%に低下したことで支払利息が36億に減少したため、収益が約90億改善しています。現在の金利がずっと続けば、その差額が大きくなっていくので良いと思いますが、現在の財政状況は資金が潤沢にあって健全に見える反面、例えば、利率が1%上昇すると費用が30億くらい増加してしまうので、今後、長期的な金利の動向等を考慮して、財政を考えて欲しいと思います。また、収益が約90億改善しましたが、職員数や人件費、その他の費用が10年前と比較して、どう変化したかということについても考慮して説明していただきたいです。どちらかという質問というよりもお願いに近いと思います。

長岡委員長 ありがとうございます。磯貝委員からの御意見を考慮していただきたいと思います。

経営企画課長 今回は結果の報告ということでしたので、いただいた御意見につきましては、次の議題2「次期中期計画」の策定に当たって、前期の中期計画の財政状況や環境の変化を踏まえ分析を行った上で生かしてまいります。また、来年度作成する際に分析結果等について、御説明させていただければと思いますので、よろしく願います。

磯貝委員 最初の質問については、どういった理由でしょうか。

経営企画課長 「その他」の差額の理由としては、主に固定資産撤去費や修繕費に不用が生じ、支出が計画額を下回ったためです。

長岡委員長 それだけでなく、簡単な理由についても説明していただけると良いかと思いません。ほかいかがでしょうか。

高橋委員 資料1-4の10ページ「(2)技術協力による国際貢献」に、479名の海外からの研修生・視察者の受入れを実施したとありますが、どのくらいの期間での受入れをされているのでしょうか。

経営管理部長 研修生・視察者の受入れでございますが、視察に関しましては比較的短期、場合によっては、外国の偉い方ですと一日、あるいは川崎市を半日視察されて、もう半日は他を視察される場合もございます。研修生の場合は、数日から一週間程度で行っておりまして、一番多いパターンとしましては、近隣を視ながら川崎市も視るといった形で、日本の上下水道の技術を紹介する取組みを行っております。

長岡委員長 ほかはいかがでしょうか。

中野委員 資料1-2の11ページ「(1) 浸水対策」のところで、令和元年東日本台風によって色々大きな被害があり、非常にマスコミや世間の注目を集めたと思いますが、「取組内容の実績等(R1)」に平成28年度に重点化地区として新たに位置付けた6地区において対策方針の検討を推進し、土橋地区については国の浸水被害軽減総合事業に位置付け対策に着手したと記載がありますが、国費が入って浸水対策実施率が大きく向上したということでしょうか。また、それと関連して、令和元年度に事業費が大幅に減っているのは、国費が入ったからなのではないでしょうか。

下水道部施設担当部長 国の浸水被害軽減総合事業というのは、大分長い間、制度としてございまして、平成28年度に設定した重点化地区の前の重点化地区でも、その制度を使わせていただいて、国費を投入して整備を進めております。二点目の事業費については、国費が入ったから減ったというわけではなく、下水道事業には地震対策、浸水対策、老朽化対策、高度処理や合流改善などの様々な事業がある中で、バランスを見ながら整備しておりますので、どうしても波が出てしまいます。結果として、こういった数字にはなっておりますけれども、今後の方向性としましては、台風の被害に重きを置いて、浸水対策に重点化を図りながら進めていくことになると思います。

長岡委員長 もう少し時間を取りたいと思いますが、よろしいでしょうか。
ほかいかがでしょうか。

見山委員 新型コロナウイルスによって生活様式が変わったと思いますが、数値的なところで、コロナ前と後で変化があったところを教えてくださいたいと思います。環境の世界では在宅勤務や断捨離で、一般廃棄物や粗大ごみが増えたといった事象が起きているので、上下水道で影響があったことがあれば教えてくださいたいというのが一点目です。二点目は、災害対応をこれまで以上に重点的に取り組まなければならないと思いますが、気候変動や生活様式の変化など含めて、変わり目に直面していて、従来の延長線上では対応出来ない問題が多く出てくると思うので、ある程度、抜本的に近いような対策を考える必要がありますので、今後の方向性を含めてお考えをお聞かせください。

経営管理部長 一点目の新型コロナウイルスによる影響についてですが、水需要で言うと、在宅勤務が4・5月は多かったことにより、一般の家事用については少し伸びています。その一方で、大型のショッピング施設などの大口の利用者については、逆にかなり減っています。需要としてはあまり増減しておらず、コロナの影響は出ておりませんが、収入としては、大口の単価が高いため減っているという状況でございます。

総務部長 二点目の御質問についてですが、気候変動による影響は大きく出てはいるもの

の、抜本的な対策というのが中々難しいと考えているところでございます。ただ、昨年度に起きた浸水被害に対しましては、まずは短期対策ということで、浸水が生じた樋管・樋門について、ゲートの電動化やカメラの設置、操作マニュアルの見直しなど、今年度の出水期前までに対応を講じたところでございます。今後の中長期対策として何が出来るのか、貯留管やポンプ場の設置といったメニューを今年度末までに出していきたいと考えているところでございます。

また、組織の面として、この後、御報告させていただきますが、浸水や地震があった際に上下水道局だけでなく、河川部門や危機管理室といった部署と連携が取れるような組織の見直しをしていきたいと考えているところでございます。

長岡委員長 他局との連携は非常に大事だと思いますので、ぜひお願いします。
ほかよろしいでしょうか。

下水道部施設担当部長 一点追加させていただいてよろしいでしょうか。台風関連で総務部長からハード整備を中心とした説明がありましたので、補足させていただきますと、やはり、ハード整備については限界がございますので、市民の皆様にとどれだけ有効な情報を発信できるかということも、非常に重要な課題であると認識しております。そのため、今後の方向性としては、そうした視点にも重きを置いて進めていきたいと考えております。

鎌田委員 一点だけ、水質のところでは目標を上回って達成としているところが気になります。計画の立て方に問題があるのかと思いますが、残留塩素の達成率のところなどで、かなり目標を上回って達成している原因を教えてくださいと思います。

水道部長 御質問ありがとうございます。川崎市では、残留塩素の低減化の取組を進めておりまして、塩素臭がきついとお水がおいしくないとよく言われますので、なるべく塩素を少なくする取組をしています。そのやり方としては、浄水場で作った水の塩素濃度をなるべく下げますが、下げ過ぎてしまうと末端の給水栓で塩素が無くなってしまい、消毒効果が無くなってしまったといったジレンマがある中で取組を進めています。そこで、一年間のうち、夏場は残留塩素の消費が大きく、冬場はなかなか塩素が減らないといった中で、きめ細かく期別で残留塩素濃度をコントロールしています。その結果として、だいぶ市内の残留塩素の低減化が進んできたというところで、目標値を0.3から0.5 mg/lの範囲として設定し、その範囲内となれば目標達成としています。

指標の立て方として、市内に20箇所の水質自動測定装置がありまして、その測定装置が設置してあるところの数値で評価をしていますので、単純に市内全域の65%のエリアで達成したということではございません。測定ポイントでの評価が市内全域での評価のように見えてしまいますので、内部でも議論しておりますので、今後はより良い達成度の設定の仕方を検討していきたいと考えております。

長岡委員長 いずれにしても、きめ細かく残留塩素管理した結果ということで、より良い方向に向かっていると思います。時間が無くなってきていますが、副委員長いかがでしょうか。

齋藤副委員長 資料の評価等の示し方について、数字で5段階評価されていますが、数字の大小でどちらが良いのか悪いのか、少し分かりにくい点と、評価の仕方が指標に合っていない取組があるので気になりました。目標に対してどのように評価をするといった基準がないので、改善をお願いしたいと思いました。

長岡委員長 今の意見については、私も同感です。施策の評価については、評価の仕方が非常に難しいと思いますが、実施したかどうかで評価するのではなく、施策が効果的だったかという視点で評価出来ないものが多いと思います。評価をする時には、実施したという実績ではなく、どうなったかという結果で適正に評価することが必要だと思いますので、御検討をお願いします。

まだ御意見があるかと思いますが、長くなってしまいますので、ここで10分弱の休憩を取りたいと思います。15時50分から再開しますので、よろしくをお願いします。

(~休憩~)

再開しますが、皆様よろしいでしょうか。

それでは続きまして、議題2「川崎市上下水道事業中期計画の策定について」御説明をお願いします。

経営企画課長 それでは議題2「川崎市上下水道事業中期計画の策定について」御説明させていただきますので、資料2を御覧願います。

(資料2)「川崎市上下水道事業中期計画(2022~2025)の策定について」説明

長岡委員長 ありがとうございました。それでは、御質問・御意見ををお願いします。

中野委員 新たに追加される「2章 事業を取り巻く環境」について、近年事業を取り巻く環境が急速に変化してきていると記載がありますが、具体的にどんな内容でしょうか。

経営企画課長 内容としては、現在の上下水道ビジョンの11ページに「3章 事業を取り巻く環境と課題」として記載がありますが、平成28年度末の作成時点から事業環境が変化してきていますので、この内容に大きな変更があったものなどについて、次期

中期計画に記載をしていきたいと考えています。また、大きな変化があり、ここで取り上げていなかったものについても、追記する形で検討していきたいと考えています。

経営管理部長 少し補足させていただきます。この5年間で大きく変わった点を具体例で申し上げますと、コロナの影響がかなり大きいと思います。そのため、国や市役所全体で市民の方が窓口に来なくても、色々な行政手続きが出来るようなデジタル化や働き方についてもかなり変わっております。コロナの関係で社会全体が大きく変化したことについて、触れることになると考えています。

長岡委員長 ありがとうございます。ほかはいかがでしょうか。

館 委 員 先程、コロナの関係で働き方が変わってきているとお話がありましたが、上下水道局で働かれている方の中で、何か働き方が変わったということはありますでしょうか。

経営管理部長 先程の話の中で少し触れましたが、緊急事態宣言下では、在宅勤務や時差勤務といった勤務形態への変化がありました。現在では、実際に集まって行う会議からリモートでの会議へと会議方法の変化はかなり進んできています。また、施策の中で国際関係の事業の説明がございましたが、コロナウイルスの影響から海外派遣職員は一時帰国をして、専門家が国内にいながらネットを通じて海外と会議を行うなど、この一年で急速に変わってきている状況でございます。

長岡委員長 ほかよろしいでしょうか。それでは、今後はこの方針で策定を進めていただきたいと思います。

これで予定した議題は以上となりますが、「その他」として報告があるようですので、一つ目の「排水樋管周辺地域における浸水対策について」説明をお願いします。

下水道計画課長 「排水樋管周辺地域における浸水対策について」御説明いたします。

(資料3) 「排水樋管周辺地域における浸水対策について」説明

長岡委員長 ありがとうございました。報告の内容については、迅速に対応されていて非常に高く評価したいと思っています。何か御質問があればお願いします。

浦野委員 おそらく、これからは自然災害を含めて、今まで経験したことがないことが起こる状況だと思いますので、専門家の皆様ですから、この設備が危ないといったところも感じておられると思います。何か起きてからの対応では、後手後手になってし

まいりますので、先程の財政収支見通しを見る限り悪い状況ではないと思いますので、お金の使える時に先に対応して、リスク管理をしっかりと行って、市民の方の安心を作っていただければと思います。

長岡委員長 ありがとうございます。御意見だと思いますが、何かございますか。他にも脆弱なところがあると思いますので、そういったところの対応をしっかりとお願いしたいと思います。ほかはいかがでしょうか。

中野委員 御報告いただいた内容についてですが、この浸水対策の事業費はどのくらいの規模で、何年度の事業になるのでしょうか。

下水道計画課長 ただいまの御質問の事業費についてですが、令和元年度の補正予算と令和2年度の予算で執行して実施しております。概算で排水ポンプ車が約2億5千万円、樋管ゲートの改良は約5億7千万円です。

館委員 先程、浦野委員からリスク管理というお話がありましたので、具体的なお話を聞かせていただければと思います。ゲートの改良で手動から電動になったとのことですが、手動での開閉操作が出来なくなったという認識でよろしいでしょうか。また、手動での操作が出来なくなった場合、リスク管理という点では停電時における対応がとても大事だと思っています。可搬式の発電機を準備されたとのことですが、発電機を使った訓練が必要だと思いますけれども、訓練は年間どのくらい予定されているのか、さらに、全体の作業訓練を実施したとありましたが、これは年間で何回くらいやる予定なのか教えてください。

下水道計画課長 まず、ゲートについての御質問ですが、手動から電動に変えても降ろす際には、クラッチを外すことにより手動での操作が可能です。基本的には電動での操作をしますが、手動での操作も想定して対応してまいります。また、訓練につきましては、今年度は合計で35回実施しております。訓練の内容といたしましては、樋管ゲートの操作訓練として14回、排水ポンプ車の操作訓練として19回、東日本台風の際には情報の伝達が課題となりましたので、その確認訓練として2回行いまして、合計35回となっております。

下水道部施設担当部長 少し補足をさせていただきます。手動から電動に変えたということも、実はリスク管理上の問題でございます。というのは、川の水位が高くなった時に職員が川に近寄れなくなってしまう可能性があります。そういった時に、ゲート操作が全く出来なくなってしまうということは最悪の事態なので、資料の「3. 遠方制御化」でお示ししておりますように、遠方制御が出来るようにしております。停電の問題もありますので、そういったところをしっかりとやっていきたいと考えております。

長岡委員長 ありがとうございます。ほかはいかがでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは続きまして、「上下水道の統合効果と執行体制等に関する検証について」説明をお願いします。

組織・定数担当課長 「上下水道の統合効果と執行体制等に関する検証について」御報告させていただきます。

(資料4) 「上下水道の統合効果と執行体制等に関する検証(概要版)」説明

長岡委員長 ありがとうございます。今まで私も色々このような委員会に出席していますが、このような局の体制に関しての検証を目にしたのは、実は初めてです。かなり踏み込んだ内容だと思いましたが、上下水道局の外からの視点で、御意見をいただければと思います。いかがでしょうか。

館 委 員 ちょっと分からないところを教えてください。

資料の4ページ目の一番下のところの「上下水道の統合形態」で方式の記載がありますが、これについては、例えば、他都市でも方式をこの中から選ぶといった慣例みたいなものがあるのでしょうか。

経営管理部長 統合形態についてですが、分かりやすくするために便宜上、記載したものでございます。実は、全国の政令市で上下水道が同じ組織になっているのは7つありまして、大きく3つの形態に分かれているということで、A方式は例えば、計画部、施設部といった形で技術部門についても横に区切っている方式で、一番統合の度合いが高い組織ではないかと思えます。B方式は今の川崎市の方式で、総務部や経営管理部といった管理部門は3事業共通で、基本的に水道部と下水道部に分かるといった組織もありますし、水道部と下水道部に分かれる中でも、例えば技術監理業務や事務所だけは上下水道としているといった、一部の業務だけは一緒にしているような方式もあります。

それと、静岡市がC方式を採用してしまして、上下水道事業管理者の下に水道部と下水道部しかない組織で、その中でどうしても局で一体化しなければならない人事・労務等の業務については、水道部で行い、財務や広報といった業務は水道部、下水道部それぞれで行うといったものです。このような大きく3つの形態がある中で、川崎市は当面、今の方式を維持していくということでございます。

長岡委員長 よろしいですか。私の知る限りでは、名古屋市はA方式を採用していたと思えますが。

経営管理部長 名古屋市と熊本市もA方式です。

長岡委員長 A方式はそんなに多くないというのが現状です。関連して、私から質問させていただきます。今後の方向性として、現状を踏まえるとB方式が適しているということで

しょうか。将来的なところも踏まえて、A方式が川崎市に適していないと判断する理由はどういったものなのでしょう。

経営管理部長 現状を踏まえると当面は今の方式を維持しますが、説明の中にもございましたが、人事交流という面で考えますと、技術的な部分で水道と下水道の違いが大きく、両方の事業をしっかりと理解している職員が少ないのが現状であるため、今後は、上下間で両方の事業を理解してもらい取組を行っていく中で、いずれ、どちらの事業でも専門家として一定の知識と経験があるようになれば、5年先か10年先かは分かりませんが、理想形として名古屋市のような形で業務ごとに区分し、上下で事務所が一緒になれば、事務所長の指揮命令系統の下で一体となって、危機事象に応じて全体で対応が出来るといったような効果もあります。当面は現状の水道、下水道の枠組みを維持していきますが、今後、状況によってはそういった方向性も可能性としてあると思います。

長岡委員長 ありがとうございます。ほかに委員から御質問等ありますでしょうか。局の体制のことなので難しいとは思いますが、これが分からないとかあればお聞かせ下さい。よろしいでしょうか。上下の連携は重要ですので、検証結果に従って今後も検討いただければと思います。どうもありがとうございます。

齋藤副委員長 一点だけよろしいでしょうか。現在、技術の継承ということが課題となっていると思いますが、上下間の技術職員の人事交流として、両方の技術を習得するようになると、技術者のキャパシティビルディングが難しくなるというか、そういった懸念があると思いますが、いかがでしょうか。

経営管理部長 確かに、技術力の継承というのは重要な課題だと思っております。まずは、それぞれの事業の専門家という形でしっかりと知識と技術を身につけることが、職員に必要なことだと思っております。そうした中で、課長職の意識調査から出てきた意見として、若い内に両方の事業を経験してみて、自分の適性を判断した上で、どちらの事業を極めるのか、又は管理職を目指すのかを選択することになるので、闇雲に毎年何人を交流させようと数値を掲げて行うような考えではなく、あくまでも両方の事業を運営していただくだけの技術力を維持した上で、可能な範囲で実施していくことになるかと考えています。

上下水道事業管理者 非常に赤裸々な検証結果で、こういったものを外部に出すということが今までなかったのですが、先日の議会でもそういった御指摘を受けていまして、やっぱり、水道と下水道は元々違うので、技術の承継といった専門技術者が重要であるという課題があって、まず、専門分野を固めるというのは当然のことで、上下水道局という組織で三つの事業をやる以上、相互理解を一定程度進めなければならないと思いますので、そこについても今後、配慮していくということで概ね御理解いただければと思います。

長岡委員長 どうもありがとうございました。名古屋市などもA方式を採用していて、自分の専門がしっかりとあって、水道が専門だけど下水のことも分かる、逆のケースもそうですけど、そういうような人が多いような感じで、まず、専門を極めるということが重要かと思います。

それでは続きまして、次の「川崎市水道100周年記念事業について」説明をお願いします。

広報・記念事業担当課長 「川崎市水道100周年記念事業について」御説明いたしますので、資料5を御覧ください。

(資料5) 「川崎市水道100周年記念事業について」説明

長岡委員長 ありがとうございました。それでは御質問をお願いいたします。市民公募委員として、中山委員から何かありますでしょうか。

中山委員 市民目線の意見しかありませんが、一つだけ。私は生まれも育ちも川崎区ですが、最近では気候変動が激しく、いつも水没するところが同じで疑問でした。資料を見させていただいて、浸水対策を一生懸命やっていたということが良く分かりましたので、今後ともよろしくお願ひしたいと思います。

長岡委員長 ありがとうございました。被害のあるところは大体同じで、低いところや川の近くといったところですね。

ほかには御意見ありますでしょうか。記念事業については、かなり大々的にやられるようなので、非常に楽しみにしております。

高橋委員 資料に「水道100周年記念水源地ツアー」と記載がありますが、市民の方を対象に参加者を募集されるのでしょうか。また、どのような方法で募集されるのでしょうか。

広報・記念事業担当課長 水源地ツアーにつきましては、2回ほど実施させていただく予定でございまして、募集人数は一回当たり40名を予定しております。また、広報紙の「かわさきの上下水道」やホームページでの募集を予定しております。

高橋委員 まだ日程などは決まってないのでしょうか。

広報・記念事業担当課長 詳細につきましては、まだ決まっておりません。

長岡委員長 これは色々な場所に行けますので、非常に良いツアーだと思います。宮ヶ瀬ダムだけに行くツアーはたくさんあると思いますが、忍野八海や相模大堰も入っ

ていて、非常にバリエーションに富んだ見学会だと思います。

広報・記念事業担当課長 訂正してもよろしいでしょうか。ツアーは四つの場所を一度に回るのではなくて、宮ヶ瀬ダムと相模大堰のコースと、山中湖と相模ダムのコースに分かれております。

長岡委員長 別々なのですね。それでも非常に良いツアーだと思いますので、ぜひ応募してみてください。ほかにはないでしょうか。

時間が参りましたので、全体を通じて委員の皆様から何かございますでしょうか。

中野委員 資料1－4の中期計画の中間評価結果について、個人的な意見になりますが、昨年度の東日本台風というのは、皆さんや市民の意識を変える機会になったと思いますが、施策体系を見ますと、基本目標Ⅱの二番目に「大雨・浸水への備え【安全・安心】」が置かれていますので、これを格上げしても良いのではないかという気がしています。多分、市民の方から台風の被害を受けて、どのように施策や計画を見直したのか、説明を求められると思います。そういった意味で、浸水への対策を重点的に示すのは、広い意味で強靱化でもありますので、位置付けを展開していただくと良いかなと思います。

長岡委員長 御意見ありがとうございます。今の意見について、御検討いただければと思います。ほかにはいかがでしょうか。

西川委員 国際協力という、すごいカッコいいキャッチフレーズでJICAと協力なさっているお話しがあったと思いますが、直感的なイメージだと、JICAと一緒にいくと法人案件になることを恐れて、市内の企業が受注を受けて、実績を作ることになり、ビジネスに繋がっていくと認識していますが、この手の場合は、上下水道局がやるのではなくて、産業局のような事業をしている局に任せる方が良いのではないかと思います。どうしてその形を取らないのでしょうか。ビジネスの視点で考えられる方が、出てきて初めて出来るような仕事だと思うのですが、先程、人事交流という言葉がありましたので、実際に川崎市の上下水道局が海外に出て行って水ビジネスをするということであれば、ノウハウを積み重ねなければいけないと思いますが、ビジネスの支援ということだとすると、武士の本分に抗ってしまうのではないかと思います。いかがでしょうか。

経営管理部長 確かにその通りで、ビジネスの視点というのも重要だと思います。国際展開を大きく二つに分けておまして、一つは官民連携ということで、「かわさき水ビジネスネットワーク」では、会員の企業が国土交通省などの事業に応募して採択されるといった状況でもありますので、川崎独自の取組として今後も続けていければと思っています。次に、技術協力の関係ですが、主にJICAの直営事業と川崎が応

募したインドネシアで行う事業がありますが、これは技術協力という枠組みで入っていくものですが、国際業務というのは相手国との信頼関係が重要だと思っております。その関係がどんどん構築されていく中で、市内の企業のビジネスに繋がればということで、取組を相互に連携させながら進めている状況でございます。

長岡委員長 ありがとうございます。例えば、国際力というものが出来て、上下水道局だけでなく、色々な事業が市内企業の国際進出を助けるという枠組みがありますので、今の御意見を参考にしながら、国際活動を進めていただければと思います。

見山委員 現中期計画の仕上げの二年間と次期中期計画に向けてということで、今が重要な時期なのだと改めて感じました。ちょうど川崎市の水道が100周年ということで、次の100年を考えた時に、多分、今までと非連続性のことがたくさん出てくると思います。過去の延長線上で物事を考えていると、対応が出来なくなります。例えば、次期の計画を考えた時に、事業を取り巻く環境のところで、もちろんコロナや気候変動の問題がありますけれども、もう一方で、デジタルトランスフォーメーションや5Gといった新しい技術がどんどん投入された場合に、それに対してどのように対応していくのかも大事で、実はDXは経営の世界では、何かを変えるというよりも経営全体を変えるという手法なので、これからは経営自体が変わってくる局面ではないかと思えます。

あともう一つ、上下統合の検証のところ非常に参考になったのですが、川崎市だからこそ出来ることをぜひ考えていただければと思います。統合形態については、三つの方式にはそれぞれの良さがあるので、B方式を採用しながら、A方式とC方式の良いところを取り入れていく、ハイブリッドのような形の川崎方式を考えることが出来る力のある自治体だと思っておりますので、ぜひ、そういったことに取り組んでいただければと思います。

長岡委員長 ありがとうございます。いただいた御意見を参考に今後検討していただきたいと思えます。

それでは、時間が参りましたので、今日は非常に内容が盛り沢山でしたが、委員の皆様から活発に発言いただきまして、良い委員会になったと思えます。ぜひ、局の皆様におかれましては、今回の委員会でも出た意見等を参考に、今後の事業を進めてより良い内容にさせていただければと思います。

これで終了しますので、事務局にお返しいたします。

事務局 長岡委員長どうもありがとうございました。また、委員の皆様におかれましては、本当に活発な御意見をいただきまして、ありがとうございました。

次回のことをお話しさせていただきますが、今年度につきましては、今のところ開催の予定はございません。なお、議題2の説明の際に少し触れさせていただきましたが、来年度は3回ほどの開催を予定しております。その一回目を7月から8月の間で予定しておりますので、近づきましたら改めて、日程の調整を皆様とさせて

いただきながら、具体的な開催日を決定したいと考えておりますので、その際はよろしく願いいたします。

それでは、本日は長時間に渡りありがとうございました。